



TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・ セクション パート3・パート4 攻略法再考

—ETS 作成問題の分析を通して—

井 上 治

概要 本論では、Educational Testing Service が作成した問題を追加分析することを通して、TOEIC 初級者のためのリスニング・セクション パート3とパート4の攻略法を再考する。前回考察した「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」という攻略法と、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法が、依然として初級者にとって効果的なものであるかどうかを検証する。

キーワード TOEIC® テスト, リスニング・セクション パート3, リスニング・セクション パート4, 初級者, 攻略法

原稿受理日 2012年10月4日

Abstract The purpose of this paper is to reconsider the two strategies for TOEIC® test beginners for dealing with Part III and Part IV in the Listening Section through additional analysis of the new questions by Educational Testing Service. We consider whether the following strategies, previously discussed, are still effective for beginners in answering the questions: “We have only to answer the first of three questions in each set,” “If only we can select a choice from among four choices that includes the noun which comes first in what the first person says in Part III and what is said in the first two sentences in Part IV, we can answer many of the first of three questions in each set.”

Key words TOEIC®, Listening Section Part III, Listening Section Part IV, Beginners, Strategies

1. はじめに

筆者は以前、TOEIC® テスト（以下、TOEIC）のリスニング・セクションのパート3とパート4について、TOEICを開発・制作している Educational Testing Service（以下、ETS）の問題を、リニューアル発表後に出版された4冊の公式問題集を分析することを通して考察した。2006年5月の公開テストからの、そして、2007年のIPテスト（団体特別受験制度）からのリニューアルが発表されて以来、公式問題集はほぼ1年半おきというペースで出版されていたが、2009年9月の4冊目以降は2年が過ぎても出版がなかった。しかし、今年6月に5冊目の公式問題集がおよそ2年9か月ぶりに出版された。そこで本論では、リスニング・セクションのパート3とパート4の新しい問題を分析し、これまでの4冊の公式問題集の問題傾向と比較することを通して、以前の論文において提示した2つの攻略法が、TOEIC 初級者がスコア400点を獲得し、500点に近づけていくためのものとして引き続いて有効であるかどうかを検証する。

近畿大学経済学部では、現在のところ、1年生から3年生までの全員が毎年12月にTOEICを受験することが必須となっている。その結果について、1年生は4月の入学時にプレイズメント・テストとして受験した TOEIC Bridge® テストと、そして、2・3年生は前年度受験した TOEIC のスコアと比較することによって、これまでの英語学習を振り返り、かつ、各自の今後の目標を設定する。さらに、この12月のテストは、1年生はリスニングのスコアがリスニング科目の「英語2L」、リーディングのスコアがリーディング科目の「英語2R」、2年生はトータルのスコアが TOEIC 科目「英語4L」、そして、3年生はトータルのスコアが選択科目（であるがほぼ全員が受講している）「TOEIC 総合2・中級2・上級2」の成績の20%分となるだけでなく、次年度のクラス分け・レベル分けのプレイズメント・テストとなっている。

その中でも、経済学部独自でおこなっている「経済学部語学留学プログラム」への参加を希望する1年生にとっては、この12月のテストが大きな意味を持つものとなっている。プログラムの参加候補者になるためには、2年生で「留学 TOEFL/Academic Reading コース」を履修している必要があり、このコースを選択するためには12月のテストで少なくとも530点以上を取得しておく必要があるからだ（しかも、このスコアは毎年少しずつ上昇している）。最終的には、2年生前期までの英語を含むすべての科目の成績の平均点と、コース担当者の評価によって参加者が最終決定されるため、英語だけが得意でも選抜

されない。しかし、このコースを選択することができなければ実質的にプログラムの参加候補者になれないわけだから、希望する学生にとっては12月のテストは大きな関門となっている。

この「経済学部語学留学プログラム」が2009年度入学生よりスタートした（3年生の前年に留学するので実際には2011年度よりスタートした）影響だけではなく、経済学部の学部案内や広報誌を通して「経済学部＝TOEIC」という情報が浸透してきていることによって、学生の TOEIC 受験に対する意識は年々高まっている。そして、筆者は1年生のリスニングの授業を担当しながらその高まりを年々強く感じてきている。

経済学部では、その多くが初めての受験となる1年生に対して、12月の受験前のおよそ1か月間に「英語2L」と「英語2R」の授業において、受験対策指導をおこなっている。筆者が毎年担当している初級から中級のクラスでは、TOEIC IP テストを初めて受けた大学生の平均点である409点（リスニング227点、リーディング182点）(TOEIC® テスト DATA & ANALYSIS 2011 [以下、D & A 2011], 12) を学生に目標として示して指導を進めるわけであるが（この目標を持つ学生を本論では「TOEIC 初級者」と表現する）、リスニング・セクションに関しては、パート3から急に問題がむずかしくなることにとまどいを感じ、TOEIC を「むずかしいテスト」と感じてしまう学生が多い。

残念ながら、TOEIC の主催者側は受験者のパートごとの正答率を公表していないので⁽¹⁾、実際の正答率に関しては、TOEIC 運営委員会から提供された資料を基に三枝幸夫氏が20年前に発表しているデータを参考にする。このデータは古いですが、近年さまざまな TOEIC 関連の参考書や問題集が載せているデータは三枝氏のものとほぼ変わらないし、実際の受験者の直接のデータを基にしている唯一のものであるという点で大いに参考になる。

それによると、上で挙げた TOEIC IP テスト初受験の大学生の平均点409点とほぼ同じ数値である400点の正答率は、リスニング（パート1—61%、2—51%、3—32%、4—33%）、リーディング（パート5—53%、6—48%、7—41%）となっており、500点ではリスニング（1—73%、2—59%、3—39%、4—40%）、リーディング（5—63%、6—53%、7—51%）となっている（Saegusa, 138）。400点でも500点でも、パート3・4においては、パート1から30ポイント、パート2から20ポイント程度正答率が下がる。TOEIC はリニューアルされたが、パート1・2とパート4の出題形式は20年前と変わっていないので、リニューアル後の TOEIC でもこの程度の正答率の差がある可能性が大きい。

(1) 井上 治 (2010), p.20. 脚注

いことが推察できる。この数値から、「TOEIC は、まとまった長い会話や文章を聴くパート3・4から難易度が急に上がる」ことが明らかであるし、12月の初受験後の1年生から多く聞く感想は「パート3・4がうまくできなかった（し、時間が足りなくてリーディングのパート7の問題がたくさん残ってしまった）」であり、上回生からの相談のほとんどは「どのような取り組みをすればパート3・4（とリーディングのパート5）ができるようになりますか」であることから、パート3・4の難易度の高さははっきりとしている。

さて、パート3とパート4は4択問題なので、すべて同じ記号を選択すれば、理論上の正答率は25%になる。このパーセンテージと、目標にするパート3—38%⁽²⁾、パート4—33%をくらべた場合、数値があまり変わらないため容易に達成可能な数字のように感じられる。しかし、この設定値をクリアして400点以上のスコアを取得することは、実際には決して容易なことではない。なぜならば、主催者側のデータは、大学生がその約80%を占める「教育機関」が受験したIPテストでは、2011年は42.33%（D & A 2011, 4）、2009年は45.13%（TOEIC[®] テスト DATA & ANALYSIS 2009, 4）の受験者が395点未満であることを示しているからである。すなわち、初めて受験する1年生が、何も対策を取らずに受験すれば、この42.33%の側に含まれてしまうことは明らかである。したがって、TOEIC初級者は、パート3・4の出題形式をしっかりと把握し、その攻略法を身につける必要がある。

そのようなわけで、以前の論文において、筆者はTOEIC初級者のためにパート3とパート4の攻略法を提示したわけであるが、次項からは、ETS作成のパート3とパート4の新しい問題を分析し、以前に提示した攻略法がTOEIC初級者にとって依然として有効であるかどうかを検証する。

2. ひとつ目の攻略法の有効性を再検証する

以前の論文で、筆者がTOEIC初級者に提案したパート3とパート4の攻略法のひとつ目は、

パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ

(2) 三枝氏のデータの32%ではなく、38%と設定した理由は、井上 治（2010），pp.21-22. を参照。

というものであった。この項では、この攻略法が TOEIC 初級者にとって効果的である理論を振り返り、その後、この攻略法の有効性を再検証する。

パート3とパート4の攻略の大前提となるのが、あらゆる TOEIC の攻略本に書かれている「質問の先読み」である。パート3はふたりの対話を、パート4はひとりの説明を聴いて答えるというちがいがあただけで、これらのパートは、「ひとつの音声を聴いて、3つの質問に対する答えを4つの選択肢から選ぶ」という同じ設問形式となっている。

この「質問の先読み」ができていない場合には、どのような質問に解答するのかを知らずに音声を聴くことになるため、音声内のすべての情報に注意を払わなければならない。さらに、音声が終わって3問の質問に答え終わるまで、その情報を覚えておかなければならず、これはかなり骨の折れる作業である。いっぽう、「質問の先読み」ができていれば、質問に関連した情報だけが把握できればよいわけだから、音声を隅から隅まで注意を払って聴く必要がないため、「質問の後読み」にくらべて格段に疲れが少ない。

この「疲れを少なくする」というのはリスニング・セクションにおけるキーワードである。パート3とパート4でテストが終了するのならばくたくたに疲れてもよいが、TOEIC ではリスニング・セクションの後に、平均スコアがより低いリーディング・セクションが待ち受けている。パート3とパート4の正答率が上がったとしても、必要以上に疲れてしまってリーディングが散々な結果になるのならば、リスニングでがんばった意味がなくなってしまう。筆者は、TOEIC でリーディングのほうが平均スコアが低い理由のひとつには、受験者がリスニングで疲れてしまい、リーディングで本来の力を発揮できていないことがあるのではないかと考えている。受験者は余力を十分に残してリーディング・セクションに進む必要があり、したがって、格段に疲れが少なくなる「質問の先読み」が大前提となる。

この「質問の先読み」をするためには、各問題の音声が始まるまでに質問を見る時間が当然必要であり、そのためには、以下の2種類の時間を有効に活用することが大切である。まずは、問題指示文の時間の活用である。リスニング・セクションでは、各パートの問題が始まる前に問題を説明する文が流れるわけであるが、パート3の実際の問題が始まるまでには「100秒（パート1）+60秒（パート2）+30秒（パート3）=190秒」という自由に使える時間があり、この時間にパート3の質問文にできるだけ多く目を通していくわけである。ただし、筆者は、TOEIC 初級者には、心を落ち着けてリスニング・セクションに入ってもらいたいので、パート1の100秒ではパート1の10枚の写真に目を通して解答の音声を想像しておくことを勧めている。そういうわけで、初級者には、パート2の60秒

からパート3の質問文に目を通していくように指導しているので、「60秒（パート2）＋30秒（パート3）＝90秒」では、それほど多くの質問文に目を通すことはできないし、さらに、パート4の質問文に関しては先読みする時間が30秒しかないので、ほとんどの質問文を先読みできないまま問題に入っていくことになる。

そこで、パート3とパート4の設問形式を利用して各自が作り出す2種類目の時間の活用が大切となる。これらのパートは、「問題の音声が終わる→1問目の質問文の音声→2問目の質問文の音声→3問目の質問文の音声→次の問題の音声が始まる」というサイクルをくり返して進んでいき、問題の音声が終わる、次のセットの問題の音声が始まるまでに、約40秒の時間がある。この40秒を例えば、「3問の質問に答える（20秒）＋次のセットの3問の質問文に目を通す（20秒）」というように使うのである。

さて、ここまで述べてきた時間の使い方は、物理的に可能なものではあるが、実際のところ、テストに慣れていない TOEIC 初級者がそのように時間を使って進めていくことはむずかしい。特に、40秒のあいだに「3問すべての質問に答えて、さらに、次のセットの3問すべての質問文に目を通す」ことは至難の業である。

そこで、筆者は、初級者がパート3とパート4で時間を有効に活用し、かつ、目標の正答率をクリアするためのひとつ目の攻略法として「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」を提案したわけであるが、この攻略法の利点は4つある。

まず、1問目の答えは、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに出てくる場合が多いので、初級者でも出だしを集中して聴けば正解できることである^③。

次に、1問目は、2問目や3問目に比べると易しい問題が多いことである。特徴としては、ふたりが会話をしている場所を答える“Where is the conversation taking place? ”、アナウンスをしている人の職業を答える“Who is the speaker?”というような、音声全体からキーワードを拾っていけばよい問題が多くみられる。このようなパターンの問題は、出だしを聴き逃した場合でも、キーワードの単語を聴いていけばよいので、初級者でも充分に対応できる。

3点目は、1問目だけを解答するということは、各セットにつき1問だけ答えていけばよいので、しっかりと「質問の先読み」をして答えることができるようになり、結果的に

③ パート4を「出だしから2文目まで」と規定するのは、5冊の公式問題集において、パート3の合計100セットの「最初の人のせりふ」の文の数を調べると平均2.13文であり、その数値に合わせたからである。

正答率が上がることになることである。TOEIC 初級者がパート3とパート4で惨敗するパターンは、音声が終わってから質問を見るという「質問の後読み」のサイクルに陥って60問を終えてしまい、目標の正答率どころか、すべて同じ記号を答えた場合の理論上の正答率である25%をも下回ってしまうというものである。いっぽう、この攻略法は、「1問目だけしか解答してはいけない」という消極的なものではなく、「将来500点、600点に到達するためには、質問文を先読みして答える問題を1問でも多く増やしましょう。その第一歩として、多くの利点がある1問目を解答していきましょう」という積極的な攻略法なのである。

最後の利点は、前項で『『疲れを少なくする』がリスニング・セクションにおけるキーワード』と述べたが、1問目だけをすれば、パート3とパート4の合計60問中20問をするだけでよいので、まさに疲れが少なくなる。さらに、この攻略法は、TOEIC でうまく戦うためのもうひとつのキーワードとも密接につながっている。TOEIC 初級者に多くみられる大きな欠点のひとつは、すべての問題に対して正解の可能性を同じように追いかけてしまう、すなわち、解答する際にむずかしい問題をいつまでも考えて時間を取られてしまうというものである。これは、多くの問題に、できることならばすべての問題に正解したいという人間の心理的側面から起こってくることであるが、TOEIC は初級者も990点満点を目指す上級者も同じ問題で受験していることを思い出してほしい。つまり、初級者には正解できなくてもかまわない問題がたくさんあるということである。初級者はこのことを認識し、すべての問題に正解しようと欲張らずに、むずかしい問題を良い意味ですばやくあきらめて次の問題に進むことが TOEIC で成功を収める秘訣なのである。この「欲張らない・良い意味であきらめる」というキーワードを、この攻略法では1問目だけに的をしぼってチャレンジすることで実践できるのである。

ここで、「1問目だけしかしなければ、目標の数値に届かないのではないか」と思う方のために、理論上の数字からみても理想的な攻略法であることを確認しておく。各パートで1問目だけを解答し、10問中5問しか正解できなかったとしても、残り20問に関して同じ記号を答えれば理論上5問正解でき、さらに、10問中不正解の5問に関して、同じ記号を答えた場合には理論上1問正解できるので、合計正答数は5問+5問+1問=11問となり、正答率は $11 \div 30 = 36.6\%$ となる。この数字はパート4の目標値の33%はクリアしているし、パート3の目標値の38%もほぼクリアできているといえる。この理論上の数字が、実際上の数字となる可能性を高くするためには、「実際のテストにおいて、1問目だけを質問文を先読みして解答したときに、10問中5問正解することが可能かどうか」を

実証しなければならない。そこで、今回は、『新公式問題集』の4冊目までのパート3とパート4の問題を分析したわけであるが、次のような結果となり、攻略法の有効性を確かめることができた。

まず、パート3の問題について、4冊の『新公式問題集』の「練習テスト」の合計80セットの1問目の問題に関して、その答えが最初の人の子りふに出てくる問題の数を「練習テスト」ごとに示した。

表1⁽⁴⁾

テキスト記号	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	合計
10セット中	6問	4問	6問	7問	7問	5問	8問	7問	50問

表1より、1問目の問題の答えが最初の人の子りふに出てくるものは平均10問中6.25問あり、この6.25問という数値は、400点をクリアするために必要な正答率38%にほぼ到達できる10問中の正答数5問をクリアしており、パート3に関しては攻略法が有効であることが示された。そして、パート4の問題について、同じ80セットの1問目の問題に関して、その答えが出だしから2文目までに出てくる問題の数を同様の方法で示した。

表2

テキスト記号	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	合計
10セット中	3問	7問	7問	7問	7問	8問	8問	9問	56問

表2より、1問目の問題の答えが2文目までに出てくるものは平均して10問中7問あり、この数値は400点をクリアするために必要な正答率33%に到達できる10問中の正答数5問をクリアしており、パート4に関しても攻略法が有効であることが示された。さらに、

(4) 以下の表中の「テキスト記号」は、「1-1」は、『TOEIC[®] テスト新公式問題集』の「練習テスト(1)」(31~40, スクリプトは『解答・解説編』15~34)であることを示す。以下、「1-2」は、同書の「練習テスト(2)」(83~92, スクリプトは『解答・解説編』97~116)、「2-1」は『同 Vol.2』の「練習テスト(1)」(33~38, スクリプトは『解答・解説編』15~34)、「2-2」は同書の「練習テスト(2)」(79~84, スクリプトは『解答・解説編』101~120)、「3-1」は『同 Vol.3』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『解答・解説編』15~34)、「3-2」は同書の「練習テスト(2)」(83~88, スクリプトは『解答・解説編』101~120)、「4-1」は『同 Vol.4』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『解答・解説編』15~34)、「4-2」は同書の「練習テスト(2)」(85~90, スクリプトは『解答・解説編』101~120)、「5-1」は『同 Vol.5』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『解答・解説編』15~34)、「5-2」は同書の「練習テスト(2)」(85~90, スクリプトは『解答・解説編』101~120)であることを示す。そして、問題を引用する場合には、例えば「5-2-41」というように、最後に問題番号を記す。

パート3が6.25問であることから、この攻略法はパート4においてより効果的であることが示された。

さて、ここで ETS 作成の最新の問題の分析に移ろう。2012年6月に出版された5冊目の『新公式問題集』の「練習テスト」の20セットを、それぞれのパートについて、前回と同様の方法（パート4では「5-1-98~100」の“Hello, Mr. Park?”や「5-2-98~100」の“Good morning.”のようなあいさつのみの短い文は2文目を1文目とみなした）で分析すると次のような結果となった。

表3（パート3）

テキスト記号	5-1	5-2	合計
10セット中	10問	9問	19問

表4（パート4）

記号	5-1	5-2	合計
10セット中	9問	10問	19問

上の2つの表より、パート3で1問目の問題の答えが最初の人のせりふに出てくるものも、パート4で1問目の問題の答えが2文目までに出てくるものも、平均して10問中9.5問あることがわかる。この数値はこれまでの平均値である6.25問、7問という数値を大きく上回っており、筆者が前回提示した攻略法が変わらず効果的であることをはっきりと示している。さらに、ここ3冊の『新公式問題集』において、パート3では12問→15問→19問、パート4でも15問→17問→19問というように、それぞれのパターンの問題が増加しているという傾向を明確に読み取ることができることから、「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」というこの攻略法は、今後も長いあいだ有効であろうことがわかる。

ただし、前回も考察したように、音声の最初のほうに正答に関連した部分が流れてくるからといって、すべての問題が易しいとは限らない。例えば、「5-1-59」は“What problem are the speakers discussing?”という質問文に対して、“James, I still haven’t seen the legal contract for the Cullens account. Did the delivery service happen to drop it off with you?”が最初の人のせりふである。選択肢(A) A document has not been received. を選ばばよいのであるが、TOEIC 初級者にとっては、legal contract → document や drop off → be received といった内容の言い換えがむずかしく感じられるであろう。そして、答えを迷っているタイミングで次の人のせりふの中に meeting と call という語が出てくるため、選択肢(D) A meeting space has not been reserved. や選択肢(C) A colleague has not returned a phone call. を選んでしまう可能性が高くなる。次に、「5-1-65」

は “What information does the woman say she will look up?” という質問文に対して, “Excuse me. I saw a painting here in the gallery last week that I’d be interested in purchasing. How do I find out what the price is?” というせりふで始まる。選択肢(B) The cost of an item を選べばよいのであるが, painting や gallery といった語が先に出てくるため, price → cost という言い換えは易しいと思うのであるが, 選択肢(A) An artist’s name を選んでしまう可能性はある。さらには, 答えを迷っていると, 後半に exhibit という語が2回くり返されるため, 選択肢(C) The dates of an exhibition を選ぶ初級者も出てくるであろう。

このように, TOEIC 初級者にとっては, 正答に関連した部分が音声の最初のほうにあると理解はしていても, 正答にたどり着けないケースは当然のように出てくる。そこで, 筆者は前回, ひとつ目の攻略法「パート3とパート4は, 3問のセットの1問目だけを解答せよ」からもう一步踏み込んだ攻略法を提示し, ETS 作成の問題において実際に有用であることを証明した。次項では, そのふたつ目の攻略法が, 最新の ETS 作成の問題においても有効であるかどうかを再検証する。

3. ふたつ目の攻略法の有効性を再検証する

前回パート3とパート4に関して TOEIC 初級者へ提示したさらなる攻略法とは,

パート3とパート4の3問のセットの1問目は, 選択肢にある名詞のなかで, パート3ならば最初の人のせりふに, パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ

というものであった。この攻略法における「名詞」とは, 例えば選択肢に attendance がある場合にはその語のみを対象とし, attendee や attention のような派生語・関連語は別の語と考えて攻略法の対象としない。いっぽうで, school attendance の school のような名詞の形容詞的用法は「名詞」とみなし, 対象の語とする。「質問の先読み」で質問を把握したうえでこの攻略法を実践することがもちろん望ましいが, 先読みができていない場合でも, 4つの選択肢の名詞を見ながら, パート3ならば最初の人のせりふを, パート4ならば出だしから2文目までをしっかりと聴けば, 先読みをした場合を少し下回る程度のパーセンテージで正解できるであろう。逆にいえば, 「質問の先読み」をしていれば

ほぼ完璧にできるようになるであろう。

今回はまず、パート3の問題について、このふたつ目の攻略法で正解できる問題数をまとめた。

表5

テキスト記号	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	合計
10セット中	5問	4問	4問	4問	6問	4問	5問	6問	38問

表1と比較すると、正解できる問題数が50問から38問に減り、平均10問中4.75問となった。この数値は、400点をクリアするために必要な正答率38%にほぼ到達できる10問中の正答数5問には少し届いていなかったが、次のパート4における数値と組み合わせたトータルの正答率として上回ることができた。

表6

テキスト記号	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	合計
10セット中	2問	5問	5問	7問	6問	7問	7問	9問	48問

表6はパート4における結果である。正解できる問題数が56問から48問に減るものの、平均10問中6問の正解は、パート4の33%をクリアできる数字である10問中5問の正解を上回っており、ふたつ目の攻略法はパート4においては十分に有効であることがわかった。そして、検証の最後として、パート3—38%、パート4—33%という目標を結果的に達成できているかどうかを検証した。パート3では、最終的に正解できる問題数は80問中38問、1セットの残り2問の総数160問に関してすべて同じ記号を答えた場合に正解できるのは理論上40問、そして、80問中不正解の42問に関して同じ記号を答えた場合に正解できるのは理論上10.5問なので、正答数は38問+40問+10問=88問となった。正答率は88問÷240問=36.7%となり、目標の38%にはわずかに届かなかった。次に、パート4では、最終的に正解できる問題数は80問中48問なので、同じ方法で計算すると、正答数は48問+40問+8問(32問÷4)=96問となった。正答率は96問÷240問=40%となり、目標の33%を大きく上回った。そして、パート3とパート4を合わせての数値は、86問+80問+18.5問(74問÷4)=184問となり、正答率は184問÷480問=38.3%となった。この38.3%という数字は、パート4—33%という数字はもちろんのこと、パート3—38%という数字もクリ

アできていたため、筆者が提示した攻略法は TOEIC 初級者にとって大いに役立つものであると結論づけた。

さて、ここでふたたび、ETS 作成の最新の問題の分析に移る。5冊目の『新公式問題集』の「練習テスト」について、前回と同様の方法で分析し、次のような結果を得た。

表7 (パート3)

テキスト記号	5-1	5-2	合計
10セット中	6問	8問	14問

表8 (パート4)

記号	5-1	5-2	合計
10セット中	8問	9問	17問

これらの2つの表より、パート3で1問目の問題の答えが「最初の人⁽¹⁾のせりふに最初に出てくる名詞」を含む選択肢を選べばよい問題が平均10問中7問、パート4で1問目の問題の答えが「2文目までに最初に出てくる名詞」を含む選択肢を選べばよい問題が平均10問中8.5問あることがわかる。この数値はこれまでの平均値である4.75問、6問という数値を大きく上回っており、ここでも、筆者が前回提示した攻略法が変わらず効果的であることがはっきりと示されている。さらに、先ほどと同様に、ここ3冊の『新公式問題集』における傾向をみても、パート3では10問→11問→14問というように、このパターン⁽²⁾の問題は増加しており、さらに、パート4でも13問→16問→17問というように増加している。このことから、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人⁽¹⁾のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」というこの攻略法も、今後も長く有効であろうことが容易に推察できる。

もちろん、この2つ目の攻略法を実践することによって、不正解に導かれてしまう問題はある。例えば、「5-2-62」は“Mr. Young? This is Andrea Soto calling from the Millson Culinary Institute. I read about your innovative cooking techniques in *Good Food Magazine*, and I was wondering if you'd be interested in giving a demonstration in my class.”(下線部は筆者、以下同様)という最初の人⁽¹⁾のせりふで始まる。質問文は“What does the woman ask the man to do?”なので、せりふの後半の内容から選択肢(D) Give a demonstration を選べばよい。しかし、2つ目の攻略法を実践すると、選択肢(C) Submit a magazine article の名詞 magazine が選択肢(D)の名詞 demonstration よりも先に登場するため、不正解の選択肢(C)を選ぶことになってしまう。また、「5-1-53」は“This is David Manning in room 417. I checked in about an

hour ago and it's much too warm in my room. I tried adjusting the air-conditioning but it doesn't seem to be working.”という最初の人の子りふで始まる。質問文は“What problem does the man report?”なので、2文目の内容から選択肢(B) His room is too warm. を選べばよい。しかし、2つ目の攻略法を実践すると、ここでは選択肢(A) His room has not been cleaned. にも room が含まれているため、理論上は答えを特定できなくなってしまう。

このほか、2つ目の攻略法によって正解できる問題として表7と表8に含まれているが、不正解に導かれてしまう可能性の高い問題がいくつかあり、それは次のパターンの問題である。この2つ目の攻略法では、「動詞」や「形容詞」は対象としておらず、さらに、前述したように、「名詞」であっても派生語・関連語は別の語と考えて攻略法の対象としないのであるが、TOEIC 初級者にとっては、「動詞」や「形容詞」が先に出てきて「名詞」のように聴こえれば、ましてや、対象となる名詞の派生語・関連語が先に出てくれば、それらを含む選択肢を選んでしまうことは十分に考えられる。例えば、「5-1-83」は、2文目に出てくる名詞 Fitness Center を含む選択肢(B) A fitness center を選べば正解なのであるが、その名詞よりも先の1文目に形容詞 healthier 出てくるため、その名詞形である health を含む選択肢(D) A health food store を選んでしまう可能性は高い。また、「5-2-74」は、1文目の名詞 restaurant を含む選択肢(C) A restaurant を選べば正解なのであるが、その名詞の直前に形容詞的用法の名詞である vegetarian が出てくるので、その派生語を含む選択肢(D) A vegetable grower を選んでしまう可能性は十分にある。

しかし、そのいっぽうで、TOEIC 初級者にとって、次のような取り組みやすい問題が増加していることを指摘したい。例を挙げると、「5-1-68」は“Our apartment-rental service is really starting to grow. Last month we placed more new tenants than ever before. I've been trying to think of ways to keep this trend going—any ideas?”という最初の人の子りふで始まるので、攻略法にしたがって、4つの選択肢の名詞の中で最初に出てくる名詞 service を含む選択肢(B) A property-rental service を選べば正解である。決して易しい問題ではないが、攻略法にしたがえば正解が得られる。しかし、ここで注目すべき点は、正解の選択肢(B)以外の選択肢に含まれる8つの名詞 construction, company, software, development, firm, cable, television, provider が音声の最初から終わりまで一切出てこない(そして、この問題においては、名詞 service だけが次の人の子りふの最後にもう一度でてくるので、選択肢 [B] が正答であることを確信できる)ということである。このパターンは、パート3に関しては、先ほどの表7の14問中10問にみ

られる。前回分析した際には、同様のパターンは38問中10問にしかみられなかったので、その割合は26%から71%へと大幅に伸びている。

ここで、同じパターンがパート4においても顕著にみられるかどうかを確認しておこう。同様のパターンは、例えば、「5-1-86」にみられる。この問題は“Hello, you’ve reached Fine Focus Acting Academy. Here at Fine Focus, we give talented young actors the guidance they need to develop their skills and start building a future in film or television.”という2文で始まるが、攻略法にしたがって選択肢(A) Acting を選べば正解となる。そして、音声の終わりまで、残りの3つの選択肢(B) Journalism, (C) Photography (ここでは、演劇学校の名称が Fine Focus なのでこの選択肢を選びたくなるかもしれないが、それはまた別の問題である), (D) Marketing は派生語・関連語を含めても一切出てこない(いっぽう, [A] Acting の派生語 actor は第4文にも出てくる)。このパターンは、パート4に関しては、先ほどの表8の17問中4問にみられる。前回は、同様のパターンは48問中14問にみられたので、その割合は29%から23%へとやや下がっている。したがって、このパターンに関しては、今後の動向を注視する必要があるが、パート3とパート4のトータルでみると28% (86問中24問) から45% (31問中14問) へと上昇していることは明らかなので、このパターン「パート3とパート4の3問のセットの1問目については、正解の選択肢以外の選択肢に含まれる名詞が音声中に一切出てこない問題が増加傾向にある」を知っておけば、より冷静に正解の選択肢を選ぶことができるようになるであろう。

それでは、再検証の総仕上げとして、パート3とパート4のそれぞれの最終の数字を合わせ、パート3—38%、パート4—33%という目標を依然として達成できているかどうかを検証する。まず、パート3で最終的に正解できる問題数は100問中52問 (38問+14問) であり、1セットの残り2問の総数200問に関してすべて同じ記号を答えた場合には理論上50問正解でき、さらに、100問中不正解の48問に関して同じ記号を答えた場合には理論上12問正解できるわけなので、正答数は52問+50問+12問=114問となる。そして、正答率は114問÷300問=38%となり、前回の36.7%から上昇し、パート3単独で目標の数値38%に届くようになった。次に、パート4で最終的に正解できる問題数は100問中65問 (48問+17問) なので、同じ方法で計算すると、正答数は65問+50問 (200問÷4) + 8問 (35問÷4) =123問となり、正答率は123問÷300問=41%となる。この数字は前回の40%と同様に、目標の33%を大きく上回っている。そして、パート3とパート4を通しての数字は、最終の正解できる総問題数は200問中117問、総正答数は117問+100問 (400問÷4) +20問 (83問÷4) =237問となり、正答率は237問÷600問=39.5%となる。そして、この

TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート3・パート4 攻略法再考 (井上)

39.5%という数字は、パート4—33%という数値はもちろんのこと、パート3—38%という数値も、前回と同様にクリアできているのである。

4. お わ り に

本論では、リスニング・セクションパート3とパート4において、「3問のセットの1問目だけを解答せよ」、さらには、「3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という2年前に筆者が提示した攻略法が、現在においても有効であるかどうかを検証してきた。そして、前項の最後でみたように、パート3において新たに、パート4において変わらず、そして、もちろんパート3とパート4のトータルにおいても変わらず、目標の数値に到達していることが明らかになり、これによって、筆者が以前提示した2つの攻略法が、TOEIC 初級者にとって依然として大いに役立つ攻略法であることが再び証明された。

前回の結びと同じであるが、初級者がパート3とパート4でこれらの攻略法を用い、1問目だけでもしっかりと質問文を先読みして答えることから始めることでスコアが急激に伸びる喜びを知り、近い将来に2問目と3問目の質問文も先読みして答える中級者・上級者になることをふたたび願いつつ、本論を終える。

参 考 文 献

- [1] Saegusa, Yukio. "A Practical Criterion for Measuring English Proficiency." *Waseda Journal of Human Sciences* (Faculty of Human Sciences, Waseda University) 3.1 (1990): 133-45.
- [2] 井上 治. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクションパート3・パート4 攻略法— Educational Testing Service 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』第8巻第1・2号 (2010): 19-34.
- [3] 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編. 『TOEIC® テスト新公式問題集』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2005.
- [4] —, 『TOEIC® テスト新公式問題集 Vol.2』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2007.
- [5] —, 『TOEIC® テスト新公式問題集 Vol.3』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2008.
- [6] —, 『TOEIC® テスト新公式問題集 Vol.4』東京: 国際コミュニケーションズ・スクール, 2009.
- [7] —, 『TOEIC® テスト新公式問題集 Vol.5』東京: 一般財団法人 国際ビジネスコ

- コミュニケーション協会, 2012.
- 〔8〕 「TOEIC® テスト DATA & ANALYSIS 2009」東京：国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会, 2010.
- 〔9〕 「TOEIC® テスト DATA & ANALYSIS 2011」東京：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会, 2012.